



【人生の結局は】

聖書本文：伝道者の書12章8-14/ 暗唱聖句：伝道者の書12:13-14

説教者：鄭南哲 牧師
(Rev. Jung nam-chul)

今日我々に与えられている神様からの御言葉は伝道者の書です。

伝道者の書というのは“**宣べ伝える、知らせる者の書**”という意味です。12章で構成されているこの伝道者の書は(伝道者1:1-2)何かこの御言葉を読む者たちに、そして我々に伝えることがある事を暗示しています。伝道者の書は何を伝えるためにこの書を記録したのでしょうか？

<1. 伝道者の著者：ソロモンのむなしい人生>

よく知られていることはソロモンの若い時は‘雅歌書’が記録され、壮年期の時には‘箴言’が、ソロモンの老年、人生のたそがれどきに書かれて御言葉が‘伝道者の書’であります。

伝道者の書においてソロモンは直接自分が書いたと名前が知らせてはいたのですが、伝道者の書の記録はソロモンだと知られています。1章1節によると、“**エルサレムでの王、ダビデの子、伝道者のことば。**”と書かれています。ソロモンはダビデとダビデの部下ウリヤの妻バテシェバからの二番目の息子として生まれ、サウルとダビデに引き続きイスラエルの三代目の王でした。ソロモンは21才にイスラエルの王となって40年間在任しました。

第一列王記3章によると、ソロモンが王になったばかりの時は神様を恐れ、神様の御心を求めました。彼が神様を恐れかしこんでいる時、神様はソロモンに“**あなたに何を与えようか**”と言われた時、ソロモンはイスラエルの民を神の御心に相応しく、正しく裁くようにと知恵を求めました。金や権力を求めず、謙遜に自分の職務を果たそうとしていた姿を喜んで下さった神様は彼が求めなかった富と誉れまですべて加えて下さいました。神様はソロモンに“**あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者はひとりもないであろう(第一列王記3:13)**”で言われました。

ソロモン王は知恵の象徴でした。第一列王記4章30節では“**それでソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵とにまさっていた。**”そして第一列王記4章34節によると、ソロモンの知恵のうわさを聞いている王たちが彼の知恵を聞きに来たと書かれています。その以外にも“**ソロモンの知恵**”もしくは“**ソロモンのすべての知恵**”という表現が聖書に何度も言及されています。(第一列王10:4, 23, 11:41, 第二歴代誌9:3, 22, 23, マタイ12:42, ルカ11:31)。

実にソロモンは富と名誉と栄華を極めた王です。エジプトのシェバの女王がソロモンの名声を聞いて訪ねるほどでした(第二歴代誌9:1)。“**ソロモン王の富と知恵とにおいて、地上のどの王よりもまさっていた(第二列王記10:23, 第二歴代誌9:22)**” イエス様も“**ソロモンのすべての栄華**”(マタイ6:29, ルカ12:27)という表現をされたというのは神から彼の富と栄華と名誉がどれだけ祝福されたのかが分ります。

それだけではありません。ソロモン王はイスラエルの民族の統一を保ち、国力を高めました。軍隊を養成し、軍費(ぐんぴ)を蓄えました。そして彼が成し遂げた一番の業績は聖殿を建てたことです。そして王宮を建てました。外国の高い建築材を輸入するなど国の貿易にも心かけました。彼はこのような政治的能力だけではなく、詩と文学、芸術、動植物学科など自然にも詳しくかったです(第一列王記4:33)。伝道者の書を見ると、まさしく彼は賢い人でした。

しかし、そんな彼が神様から離れ始めます。国が豊かになり、平穏になって安定してくると彼の生き方は神から離れ、墮落に陥てしまいます。そうすると、神様に対する熱望は冷め、罪に対する敏感性も失われます。神様を意識し、神を信じる信仰によって従って生きるより、ただ自分の尽きない快樂と食欲の道を選び、走り始めました。その結果、結局、神から与えられたすべての富と権力は自分の快樂の道具となってしまいます。彼は自分の妻に満足せず、およそ一千人ほどの女性を自分のそばに置かせました(第一列王11:4)。ソロモンが自分で告白するように“**私はまた、銀や金、それに王たちや諸州(しょしゅう)の宝も集めた。私は男女の歌うたいをつくり、人の子らの快樂である多くのそばめを手に入れた。(伝道者の書2:8)**”

創造主の神以外の異邦の偶像の神々を拝んでいた女たちを自分のそばめとして受け入れると、自動的に自分もさっそく偶像崇拜に陥り、アシュタロテを拝み、ミルコムとモレックにも拝み、グモスの神まで全部拝んでしまいました。そういうわけで、彼は老後(ろうご)、人生のたそがれどき、全てのことを経験したと告白します。

“**私は、日の下で行なわれたすべてのわざを見たが、なんと、すべてがむなしいことよ。風を追うようなものだ。(伝道者の書1:14)**”

彼は老年になってようやく今までの人生の旅路を振り返ってみながら、懺悔(ざんげ)しながら、神様の御前でのまことの人生の意味を問いかけています。我々の人生はどこから来てどこに向かっていくのか？ 日の下で一度だけのこの人生をどうやって生きるべきなのか？ 彼が一人の経験者としてこれから人生を歩もうとしている人々に説教し、

メッセージを投げているのです。これがまさに伝道者の書なのです。

<2. 伝道者の書のテーマ：逆説：だから日の上(創造主の神)を見上げなさい！>

伝道者の書はどうやって始まっていますか？

1章2節をみてください。“空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。”

英語の聖書では空という意味をMeaninglessで訳しましたが、これが5回も繰り返されています。日の下でのすべてがむなしい(Everything is meaningless)という意味です。この伝道者の書の結論になる、**12章の8節**でも今までの人生の中でやった事をすべて述べてから結論的にもう一度繰り返されています。

“空の空。伝道者は言う。すべては空。”

伝道者の書のカギになる一番よく出てくる単語が二つありますが、**‘空(meaningless)、むなしい(vanity)’**という言葉に合わせて**29回**、**‘日の下で’**という言葉が**29回**も出ています。日の下で限られている時間と空間のもとでのしばらくの人生の旅路である意味が含まれています。神様なしに日の下で人生の真の生きる意味と目的を捜そうとする努力もむなしいし、意味がないということを伝道者の書は語っています。

そういうわけで伝道者の書によると、日の下で人間の知恵もむなしいし(伝道書1:12-18)、快樂もむなしい(伝道書2:1-11)、知恵と富もむなしい(伝道書2:12-23)、人間のすべての努力もむなしい(伝道書2:24-3:15)ということ語っています。4章から11章まではすべてがむなしいという主題をさらに拡大し詳しく説明する内容が書かれています。

しかし、愛するクリスチャン信仰の家族のみなさん！決して誤解(ごかい)してはいけません。この伝道者の書のメッセージは**虚無主義(ぎよむしゅぎ、ニヒリズム)**や**悲観主義**を主張しているのでは決してありません！

日の下でのすべてがむなしいからこそ、方向を変えて日の上の真の神様を見上げる時、人生のまことの望み、どう生きるべきなのかその真の答えがあることを言っているのです。

<3. 伝道者の書の結論>

伝道者の書を結論的にまとめたところが始めに読んだ**13-14節**です。

“結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。”

“結局のところ、もうすべてが聞かれていることだ。”これは言うべきことは言ったはずだ。‘だから結論はこれだ’という意味です。**12章1節の“あなたの若い日(まだ生ける力があるうちに)に、あなたの創造者を覚えよ。”**というメッセージで結論を出して終わっていますが、まとめて、3つのポイントでまとめて見る事ができるでしょう。

一つ目、神様なしの人生は無意味であることです。どんなにたくさん所有し、すべての権力と名誉を持っていたとしても、神様がその人生になれば、結局人の人生は無意味でむなしさを感じるしかないことです。これが、我々をお造りになった神様が伝道者ソロモンを通して彼の人生の末に悟らせて下さった真理であります。

二つ目に、神様を愛し、その命令を守らなければならないことです。

これが人が追い求めるべき最善の道である事です。伝道者はこれがまさに人間の持つべき務(つと)めであると教えて下さっています。すでに神様はソロモンを通して**箴言9章10節で、“主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである。”**と教えて下さいました。人生のまことの知恵は神様を知り、信じることから始まります。なぜなら、創造主神様のみを救いと永遠のいのちと祝福が全部あるからです。人間は本来神様を信じ、頼って神と交わりながら生きようと造られた存在です。

最後に、神様は人間のすべての行いをご存知で裁かれると言うことです。これが伝道者の書の最後のメッセージです。神様は我々の考えていること、心のすべてのはかりごとやすべての行い、他の人の知らない隠密(おんみつ)なことさえもすべてご存じであり、裁かれると言うことは人生は生きている時がすべてではない事を暗示して下さっています。かならず、この一度の人生の旅路の機会を終わった時には、だれであってもかならず、神の御前にお立ちになり、人生のすべての精算をされる時が待っている事を教えて下さっています。愛するみなさん！だからこそ、今生かされて我々の一度の人生がどれだけ神様の御前で大切なのか逆説に教えて下さっているのではないのでしょうか。だからまだまだ自分の人生は問題ないと、長いのだと油断しながら、神様から離れ、自分勝手に歩んではいけません。

愛する信仰の家族のみなさん！我々の人生が長いように感じる時もありますが、人生を振り返ってみると、どんな早いのか分かりません。**詩篇90:4節に、“まことに、あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り、夜回りのひとときのようなです。”**、**詩篇90:10節**では人生についてこのように表しています。**“私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわずわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。”**

今日の伝道者の書の結論はかつてソロモンの父であったダビデの告白と似てるような内容だと感じさせられます。**詩篇39篇4-6節**です。**“主よ。お知らせください。私の終わり、私の齢が、どれだけなのか。私が、どんなに、はかないかを知**

ることができるように。5 ご覧ください。あなたは私の日を手幅ほどにされました。私の一生は、あなたの前では、ないのも同然です。まことに、人はみな、盛んなときでも、全くむなししいものです。セラ 6 まことに、人は幻のように歩き回り、まことに、彼らはむなく立ち騒ぎます。人は、積みたくわえるが、だれがそれを集めるのかを知りません。”そして結論的の人生の答えはこうでした。“主よ。今、私は何を待ち望みましょう。私の望み、それはあなたです。(詩篇39:7)”

愛する信仰の家族のみなさん！我々の生涯で練習はありません。通って来た我々の人生の旅路は消すことはできません。神様のさばきは平等です。ローマ人への手紙2章16節の御言葉のように神様の裁きは正確で、正しく行われます。ヘブル人への手紙9:27で、“そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、”と記録されています。

伝道者の書は人生の結局、ソロモンを通して人間のなやむべきすべての疑問と絶望と試して見るすべてが書かれています。ソロモンは人生の末に人生においての飢え渴きとむなしさの中で、人生の真の意味を問いかける神様の御言葉です。ソロモン王は死ぬ直前、悔い改め、もう一度神様を見上げます。そして、この伝道者の書を読んでいるすべての者たちがぐれぐれも自分のような生き方は繰り返さないようにと語っています。そして、われわれにこう伝えていきます。“今までと違ってもう一度神を見上げて、神に立ち返って新しく生けるチャンスが、その機会がまだあなたに許されているのよ”と。

今日この伝道者の書に招待された我々はしばらく今までの人生の旅路を振り返って見て下さい。神様の御前で私は今まで何を求めるために生きて来たのか？何が自分の人生の目標なのか？ いったい自分はどこに向かって頑張っているのか？

今日我々を招いて下さった伝道者の書を通して、今この時点でもう一度創造主なる神様を覚え、信じ、その御言葉に従って、その神様とともに歩むことができますように切にお祈り申し上げます。

そうする事によってその人たちに与えて下さる生きる真の意味と目的と豊かな祝福を蓄え、経験していくクリスチャンプレイズチャーチの家族一人一人となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！！